

学友同窓会報

第13号

平成17年2月8日発行

北海道千歳リハビリテーション学院

学友同窓会 会長 中野大輔

編集 学友同窓会広報局

Email: dousoukai@chitose-reha.ac.jp

URL: <http://www.chitose-reha.ac.jp/dousou/>

～ 新年所感 ～

学友同窓会会長 中野 大輔（王子総合病院）

大寒の候、会員の皆様におかれましては増々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、学友同窓会も早いことで6年を迎えました。私が会長就任してから早2年が経とうとしています。この間、我々は学友同窓会の今後の方向性、可能性について役員一丸となって取り組んで参りました。具体的には、特に若い会員が日常的に有用な学術活動の実施、学院・学生、会員相互の交流活動の推進といったところで、この2年は役員一同身を粉にして奮起して参りました。

内部的には急激な会員増加による必要経費の効率化、役員会の円滑な実施と役員の負担軽減のためのシステム化を進めて参りました。

この2年間を回顧することで、今後の学友同窓会活動をより円滑かつ効率的にできるものとなりました。

今年は「会員参加型の学術活動化元年」を主たるテーマに置きたいと思います。具体的には、千歳リハを巣立ち、卒業生がこれまで臨床で培ってきた知識・技術の提供と相互研鑽し、それに学生も集って実習でも得られないような「生の臨床の意見や経験」を体験してもらい、理解を深めていくといった内容を実施したいと考えております。

内部的には経費の効率化を推進するため、従来の紙面からEメールによる情報提供に順次変更していきます。この点につきまして、既に各期幹事から個別にお願いされていると思いますがご協力くださいますようお願い致します。

また役員活動の効率化のための施策も実施したいと思います。

さて同封されている通り、今年も臨床教育研究会が開催されます。例年3月に開催されていましたが、今回は4月に開催することになりました。「機能的バランス評価」というテーマで、今やPT業界では有名な埼玉大学医学部の内山 靖先生を招聘しご講演していただきます。座位バランスといった身近でかつ、臨床的な内容で、PT・OTには大変有用な会になることと私自身も今から指折り楽しみにしている次第です。

是非多数の会員の皆さんの参加をお待ちしております。
最後になりましたが、今年もよろしくお願い致します。



OT勉強会 無事終了!



去る H16 年 11 月 20 日道通ビルにて学友同窓会主催の OT 勉強会が行われました。テーマは「ICF の概要と臨床での活用について」身障系・精神科系の講義をそれぞれ学院より久保勝幸先生と松田竜幸先生にお願いし、講演後は「臨床における ICF の活用の事例」をテーマに症例報告を道央佐藤病院（OT4 期生）杉本千晴さんと平和リハビリテーション病院（OT3 期生）桧森史絵さんに行ってもらいました。今回の会報発行にあたり発表者である杉本さんと桧森さんに一筆頂きました。

道央佐藤病院 作業療法士 杉本 千晴

今回、就職し初めて担当した症例を発表させて頂きました。皆様に分かりやすくお伝えする難しさまた、自分自身の不勉強さを痛感する機会となりました。正直なところ日々の業務に追われそれを遂行していく事で精一杯ではありますが千歳リハビリテーション学院で学んだ事を思い出し一日一日を大切に患者さんによりよい援助ができる様努めて行きたいと思えます。聴講頂いた諸先輩学生の皆様には私の拙い発表にお付き合い頂き誠に有難うございます。またこの様な貴重な機会を提供下さいました実行委員諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

平和リハビリテーション病院 作業療法士 桧森 史絵

平成 16 年 11 月 20 日の学友同窓会主催の OT 勉強会で『ICF による症例検討』というテーマでの発表をさせていただきました。お話をいただいたときには「困った」というのが正直な気持ちでした。実際に職場で ICF を使ったことがないことに加えて、大勢の前で発表する緊張感に耐えられるか不安だったのです。けれども、この機会に ICF を実際に使って症例を考えることができるのは、とてもよい機会であったため、不安ながらも話をお受けしました。

実際に ICF を使用して感じたことは、難しく考えずに使い慣れることが大切、ということでした。また、症例検討の準備をしているうちに、「これまで学校で教育を受け、臨床で行ってきたことを表記したものではないか？」と感ずることがたびたびありました。ICF の着目点として、出来ないこと（マイナス面）だけではなく出来ること（プラス面）を見ることを重要視していることや、個人因子や環境因子などの項目があげられます。けれども、実際に臨床で対象者にアプローチする際に、プラス面を見ることをおろそかにしたり個人因子や環境因子を考えに入れずに行うことはまずありえないことです。ですので、ICF の使用法についてのルールに慣れてしまえば、「対象者の生活機能や障害の全体像をとらえる」ことに有効利用出来るようになるのではないかと思います。

最後に、勉強会での発表の感想ですが、やはり、緊張しました。緊張しすぎて、言うべきことを言い忘れてしまったり、言葉に詰まったりと、参加されている方々に聞き苦しい思いをさせてしまったと、反省点だらけでした。けれども、この症例検討の機会に恵まれてたいへん自分の考えを発表する機会を得て良かったと思えます。自分の考えをまとめていく作業の難しさや知識の不足を思い知ることが出来ますし、なによりも、発表後の参加なさっている方々からのご意見や助言がありがたいものでした。勉強会で発表することは、準備に時間や労力が要り、業務が滞りがちになってしまうデメリットもあるのですが、得るものは大きいと思えます。同期の皆さんや後輩の方々にも機会があったら、ぜひ発表してみることをお勧めしたいと思えました。

平成 17 年 1 月 31 日

学友同窓会会員 各位
卒業生 各位

北海道千歳リハビリテーション学院
学友同窓会 会長 中野大輔

第7回臨床教育研究会のご案内

今年は各地で大雪に見舞われましたが、先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本年も何卒よろしく願いいたします。

さて、来る4月に毎年恒例の臨床教育研究会が開催されます。今年は総会と合同となるため、4月という時期になりました。日時・開催場所・講習内容・講師など詳細が決定しましたのでご案内します。現在、バランスに関して様々な論文や報告等が聞かれており、臨床場面での評価や治療での応用などにおいて必要不可欠な知識である。今回は“座位バランス”というテーマを考え、OT や若いPT でも応用できるように基礎的な部分からADL 場面でのより応用的に座位バランスをどのように評価・治療に活かせるようになることが目標です。また、今回からメールでの受付を最優先とさせていただきます。詳細は参加申し込み用紙をご確認下さい。皆様の参加をお待ちしています。

記

日 時 : 平成17年4月9日(土)
場 所 : かでる2・7 520 研修室
定 員 : 100名
内 容 : テーマ「座位バランス」

サブテーマ「ADLでのバランス 基礎～臨床での応用」

講 師 : 内山 靖先生(群馬大学医学部教授 保健医療学科 理学療法専攻)

参加費 : 会員 2000円 非会員 4000円

タイムスケジュール(予定)

14:00 受付開始
14:30 講演
17:30 終了予定

<内山 靖 先生について>

略歴

1985年 国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院 卒業
同年 北里大学病院リハビリテーション部 入職
1986年 北里大学東病院リハ・社会医療部
1989年 北里研究所メディカルセンター病院 リハビリテーションセンター主任
1992年 放送大学教養学部「発達と教育専攻」卒業
1997年 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程終了 博士(工学)
1998年 群馬大学医学部保健学科 助教授
2001年 群馬大学医学部保健学科 教授 日本理学療法士協会理事



学友同窓会 事務局長 澤田大輔

お願い

H15.7 発行の会報に同封した<入会・異動届>に記載してあります 学院Fax番号に間違いがあります。 (正: 0123 - 28 - 5335) 既に訂正のはがきを送付させて頂いておりますが、度重なる誤送が後を絶たず、先方にご迷惑を掛けております。提出の際には、必ずご確認いただきますよう宜しくお願い致します。

ご面倒をお掛けいたしますこと心よりお詫び申し上げます。

入会手続きと会費納入のお願い

入会手続き及び会費納入が済んでない方・・・お早めにおねがいします。

会費納入が滞りますと会の運営にも支障をきたします。

手続き、納入の程宜しくお願い致します。

入会金 ￥10000 (永年会費)

振込先 郵便口座

記号 19070 番号 32412801

北海道千歳リハビリテーション学院 学友同窓会 代表 佐藤一成

アドレス登録のお願い

千歳リハビリテーション学院学友同窓会も創設から6年が経ちました。今年度より夜間部卒業生も加わり会員数は年々増加しています。それに伴い今後、名簿管理、勉強会案内・会報発行等の作業の煩雑化が予想されます。そこで、作業と経費の削減と効率化を図る為Eメールを利用しての各行事のご案内と返信を検討しております。

つきましては、お手数ですが利用可能なアドレスを下記まで送信して頂けますようお願い致します。原則としてアドレスは事務局管理とし、他へ流出することはありませんので、何卒よろしく願いいたします。

学友同窓会メールアドレス dousokai@chitose_reha.ac.jp

北海道千歳リハビリテーション学院 Fax 0123 - 28 - 5335



事務局

今年も学院祭に参加しました！

学院の学生さんと同窓会員の交流を目的に始めたこの企画、学友同窓会・事務局による出店も恒例となり、今年もはりきって参加させていただきました。売り出す商品は「ミスタードーナツ」で、豪華（！）な景品付きでした。前回よりも売る個数を倍にしてみました・・・。が・・・。



当日の天候は良く、一般客の出足も順調かと思われたのですが、午前中に販売数が伸びず・・・。

一時は大量の売れ残りかとひやひや・・・、しかし！11：30 過ぎに客足が伸び 15：00 には無事完売することができました。なお、例年通り売上金の一部は在校生のために学院・学友会へ寄附させていただきました。



広報局

会報メール配信システムについて

各会員に向けて事務局からお願いされている E-mail のアドレス登録ですが、広報局として来年度より一部メール配信にて学友同窓会の情報をお知らせするシステム作りを考えています。現在、年 2 回の会報を発行していますが経費削減やリアルタイムでの情報をお伝えしたいと考えていますので沢山の会員の方々の登録をお待ちしています。

＜企画物＞

寒くて熱い？ Australia

千歳リハビリテーション学院 作業療法学科 久保勝幸

昨年7月31日(土)から8月21日(土)までの3週間、PT学科学生5名、OT学科学生2名、引率教員2名(久保、理学療法学科：隈元庸夫)がAustraliaのWest Australia州PerthにあるCurtin工科大学への短期留学へ行ってきました。この短期留学は特定非営利活動法人健康科学研究開発センターが企画した事業で、当学院の他、郡山健康科学専門学校・千葉医療福祉専門学校のPT学科・OT学科学生を中心として、学生40名、スタッフ12名が参加しました。

1週目は医療英語特設コースを受講し、生活に必要なコミュニケーションとしての英語を学習しました。学生は3週間ホームステイの生活ですので、大学でも帰ってから英語を使う「英語づくし」の生活で慣れるのも大変だったと思います。3週間だけの経験ですが、英語でコミュニケーションをとっていくためには、勇気を出して話すことが大切だと思います(相手の話を聞くのには少しトレーニングが必要とも思いました)。私と隈元先生はアパートメントホテルでしたので、同室だった郡山の関根先生に食事の準備はお任せしてゆっくり？過ごしていました(関根先生は、学术交流で4月から半年間、当学院へいらっしゃいます)。

2週目はPT・OTに関する講義を受講しました。Australiaでは医療としてよりむしろ健康科学としてのPT・OTが中心であると感じました。ご存じの通りAustraliaではPT・OTは開業することができますので、街を歩いていても“Physiotherapy”の看板を多く見かけました(OTは残念ながら見かけませんでした)。

3週目は、施設見学でした。Perth市内の有名病院・社会福祉施設・福祉用具センター・飛行機での救急サービス等を見学しました。日本よりもcommunity careが充実していること、また福祉用具を使用する際には必ずPT・OTによるassessmentが必要なことなど、制度やPT・OTの役割についても考えさせられました。

また、それぞれの週末にはツアーも計画され、Australiaの文化や自然の雄大さを味わうことができました。8月のAustraliaは、さすがに雪こそ降りませんが朝は5度前後まで冷え込み、日中も20度までいく日はなく、暖房器具など恵まれている日本と比べるとかなり厳しかったですが、体調を大きく崩す学生もいなく、最終日に修了書を授与され、無事帰国することができました。

卒業生の皆さんも、臨床経験や研究実績などにより、海外の大学・大学院への進学や、外国の免許取得などのチャンスがあります。日々の臨床を大切にしながら、様々なことに熱くチャレンジして欲しいと思います。



定期総会について

毎年5月の時期になると定期的に行なわれている「学友同窓会定期総会」ですが、例年であれば学院で行っていましたが平成17年度は4月に開催される臨床教育研究会に合わせて行う予定です。

毎年会員の参加率が低迷しているため今年は多くの会員の参加をお待ちしています。

編集後記

平成16年度は、アテネ五輪や駒大苫小牧高校甲子園初優勝、日ハムがプレーオフ進出とスポーツで沸いた一年だった気がします。私事ですが、地元が苫小牧と言うこともあり夏の甲子園優勝で盛り上がっていました。最近は野球も強いのですが、駒大苫小牧と言えば・・・、やっぱりアイスホッケーが全国的に有名です。

また、台風や地震など自然が猛威を振るった年でもありました。私の職場では鶏小屋が全壊し近くの小学校の大木もなぎ倒されていました。(自然の恐ろしさを実感しました。)

さて、今年の臨床教育研究会も昨年度と同様に札幌市のかでる2・7での開催を予定しております。昨年交通機関が便利と言う事でアクセスしやすく好評でしたので今年も沢山の会員の方々の参加をお待ちしています。